

北大時報

教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタに研究者17名が参加 SCSK北海道株式会社と包括連携協定を締結

北海道の高校生と対話する

ACADEMIC FANTASISTA 2021

可能性のページをめくろう。

新薬開発で動物をがん・感染症から救う
獣医学研究科 准教授 今内 克

がん細胞の動きを止める！
先端生命科学研究所 教授 芳賀 永

中国文学と異性愛
文学研究科 准教授 田村 容子

ADHDで認知症や神経難病の早期発見を目指す
医学研究科 教授 工藤 興亮

再生医療で脳を治す
医学研究科 助教 川堀 真久

動くがんを狙い撃つ
放射線治療技術
工学研究科 准教授 宮本 直樹

放射線・放射能の科学
工学研究科 教授 小嶋 元

原子をあやつり新しい材料をつくる
工学研究科 教授 米澤 徹

夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて
電子科学研究所 特任教授 三澤 弘明

有機化合物の常識を打ち破る！
理化学研究所 准教授 石垣 侑祐

点に優しい高精度電子線治療をもっと身近に
医学研究科 准教授 橋本 孝之

顕微鏡でみるミクロな水中の世界
基礎科学研究所 准教授 木村 勇気

糖と生命
先端生命科学研究所 教授 比能 洋

アイヌ民族の歴史から世界を見る
アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤 博文

漸化式を使って様々な現象を数式にしてみよう
電子科学研究所 副学長兼副所長 数学研究センター 教授 長山 雅晴

医師はAIに勝てるのか？
医学研究科 准教授 平田 健司

過去の講義の様子

アカデミック ファンタジスタ
ACADEMIC FANTASISTAは、北海道大学の研究者が、
知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生に伝える事業です。

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

過去の業績例はこちらをご覧ください。
Facebookアカウント
@Hokkaido.univ.taiwa
〒060-0810 札幌市真駒内 北海道大学 講義学舎



教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定



北海道大学アンバサダー チャールズ S. ヴァイラッパン教授が令和3年度外務大臣表彰を受賞

全学ニュース

- 1 教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定
- 2 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタに研究者17名が参加
- 3 北海道大学アンバサダー チャールズ S. ヴァイラッパン教授が令和3年度外務大臣表彰を受賞
- 4 令和3年度教員免許状更新講習を開催
- 5 令和3年度学生相談講演会をオンラインにて実施
- 5 令和3年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施
- 6 SCSK北海道株式会社と包括連携協定を締結
- 7 北大マルシェCafé&Laboが大丸札幌店催事「がんばろう北海道！フェア 協力：北洋銀行」に出展
- 8 北大フロンティア基金

部局ニュース

- 10 公共政策大学院が「HOPS地方議員・公務員向けサマースクール2021」を開催～新型コロナ下の地域経営：脱出の糸口をどう見いだすか？～
- 11 スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催
- 12 水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」 「みんな意外と分かっている！海岸動物の社会関係」を開催

諸会議の開催状況

13

学内規定

13

人事

14

- 15 新任教授紹介

訃報

- 16 名誉教授 清水 宏 氏
16 名誉教授 延與 三知夫 氏



令和3年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施



SCSK北海道株式会社と包括連携協定を締結



スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催



大学院水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

■全学ニュース

教育関係共同利用拠点に2拠点が再認定

全国で60施設が認定を受けている教育関係共同利用拠点のうち、北方生物圏フィールド科学センターの森林圏ステーション及び水圏ステーション（厚岸臨海実験所・室蘭臨海実験所）の2拠点について、認定期間が今年度末までとなっていたことから、再認定の申請を行っていたところ、7月30日（金）付けで、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣から再認定されました。

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ、質の高い教育を提供していくこと

を目的として、各大学が保有する施設の共同利用を推進するものであり、本学は全国最多となる以下の5拠点が認定されています。

今回再認定を受けた北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションは、亜寒帯から暖温帯林までの多様な森林を有する世界最大の大学研究林を活かし、様々な生態系をフィールドとして環境計測や生態系調査の実体験を通じて、環境や生態系保全に対する森林の役割について自ら学ぶことができる実践型教育拠点です。

また、同水圏ステーション（厚岸臨

海実験所・室蘭臨海実験所）は、それぞれの地理的な特性や研究分野を活かした臨海実験所として、寒流域における生物多様性・生態系研究について、先端的かつ統合的な臨海教育を行っている海洋教育拠点です。

今回の再認定を契機として、これら拠点の活動によりますます他大学との連携が強化されることと、多様で高度な教育を展開していくことが期待されます。

（総務企画部企画課）

	施設名	拠点名	認定期間	当初認定
1	水産学部附属練習船おしよる丸	亜寒帯海域における洋上教育のための共同利用拠点	2021.4 ～ 2026.3	2011.4
2	北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション	フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点	2022.4 ～ 2027.3 【再認定】	2012.7
3	北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション (厚岸臨海実験所, 室蘭臨海実験所)	寒流域における海洋生物・生態系統合教育の国際的共同利用拠点-海洋の生態系機能とその持続的利用について学ぶ-	2022.4 ～ 2027.3 【再認定】	2012.7
4	北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション (白尻水産実験所, 七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所)	食糧基地, 北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点-水圏環境・水圏生物・技術・人間活動から未来を考察できる人材育成-	2020.4 ～ 2025.3	2015.7
5	高等教育推進機構 (高等教育研修センター)	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点-教育の内部質保証を担う大学教職員の能力向上プログラムの開発-	2020.4 ～ 2025.3	2015.7



森林圏ステーション（雨龍研究林）での森林保全実習の様子



水圏ステーション（室蘭臨海実験所）での海藻採集の様子

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタに研究者17名が参加

本学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生に伝える事業，“Academic Fantasista（アカデミックファンタジスタ）”は、内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度のアカデミックファンタジスタに参加する、17名の研究者を紹介します。

（総務企画部広報課）



8月23日（月）の北海道新聞（朝刊）に掲載された今年度のキックオフ広告

【順不同】

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 石垣 侑祐 准教授（理学研究院） | 「有機化合物の常識を打ち破る！」 |
| 芳賀 永 教授（先端生命科学研究院） | 「がん細胞の動きを止めろ！」 |
| 比能 洋 教授（先端生命科学研究院） | 「糖と生命」 |
| 伊藤 肇 教授（化学反応創成研究拠点/工学研究院） | 「元素と原子と分子のおはなし」 |
| 小崎 完 教授（工学研究院） | 「放射線・放射能の科学」 |
| 米澤 徹 教授（工学研究院） | 「原子をあやつり新しい材料をつくる」 |
| 宮本 直樹 准教授（工学研究院） | 「動くがんを狙い撃つ放射線治療技術」 |
| 工藤 與亮 教授（医学研究院） | 「MRIで認知症や神経難病の早期発見を目指す」 |
| 橋本 孝之 准教授（医学研究院） | 「体に優しい高精度陽子線治療をもっと身近に」 |
| 平田 健司 准教授（医学研究院） | 「医者はAIに勝てるのか？」 |
| 川堀 真人 助教（医学研究院） | 「再生医療で脳を治す」 |
| 今内 覚 准教授（獣医学研究院） | 「新薬開発で動物をがん・感染症から救う」 |
| 田村 容子 准教授（文学研究院） | 「中国文学と異性装」 |
| 木村 勇氣 准教授（低温科学研究所） | 「顕微鏡でみるミクロな水中の世界」 |
| 長山 雅晴 教授（電子科学研究所附属社会創造数学研究センター） | 「漸化式を使って様々な現象を数式にしてみよう」 |
| 三澤 弘明 特任教授（電子科学研究所） | 「夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて」 |
| 加藤 博文 教授（アイヌ・先住民研究センター） | 「アイヌ民族の歴史から世界を見る」 |

■本学の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、アカデミックファンタジスタの公式Facebookでも、講義レポート等を随時更新しています。ぜひご覧ください。

リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/>



アカデミックファンタジスタ公式Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa



北海道大学アンバサダー チャールズ S. ヴァイラッパン教授が令和3年度外務大臣表彰を受賞

8月20日（金）、外務省は、マレーシアのサバ大学教授で、北海道大学アンバサダーでもあるチャールズ S. ヴァイラッパン教授に令和3年度外務大臣表彰を授与すると発表しました。

外務大臣表彰は、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をしている中で、特に顕著な功績のあった個人及び団体について、その功績を称えとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的としています。

ヴァイラッパン教授は平成13年度に北海道大学地球環境科学研究科で博士号を取得し、現在はマレーシアのサバ大学で海洋天然物化学の研究を行って

います。ヴァイラッパン教授はマレーシア科学アカデミーからTop Research Scientist Malaysia 2020を受賞するなど、同国のトップ研究者としてご活躍中です。

ヴァイラッパン教授は北海道大学で学位取得後から現在に至るまで、北海道大学の研究者や大学院生との共同研究や教育を積極的に行っています。その活動は北海道大学とサバ大学間の連携と友好関係の深化にとどまらず、マレーシアの中等学校と札幌啓成高校の生徒との高校生交流にまで広がっています。

受賞者のヴァイラッパン教授は、「私が今日達成したことは、北海道大

学、特に地球環境科学研究院の先生方が私に教えてくださった知識と価値観なしには実現できませんでした。幸いなことに、北海道大学の友人や共同研究者も同じような価値観を共有し、協力してくれました。私は北海道大学の学生時代に文部科学省の奨学金を受けていましたが、今の私があるのは多くの日本人の寛大なご厚意によるものです。私はいつも謙虚さと感謝の気持ちを忘れないようにしています」と述べています。

（総務企画部広報課）
（環境科学院・地球環境科学研究院）



ヴァイラッパン教授



日本人研究者や学生とフィールド調査



サバ大学熱帯生物保全研究所に札幌啓成高校の生徒を招待

令和3年度教員免許状更新講習を開催

8月1日（日）から8月22日（日）にかけて、今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

教員免許を持っている現職教員等は、10年ごとに設定される修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域・選択必修領域においてはそれぞれ6時間、選択領域においては18時間）を受講・修了し、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請する必要があります。本講習制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得る

ことを目指すために、平成21年4月1日に導入されました。

平成21年度以降、本学では毎年講習を実施しており、今年度も様々な学校種の教員等を対象として、全7講習を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策として、対面による講習では講義室の換気やマスクの着用、間隔をあけた座席配置等を行いました。また、今年度は一部の講習をオンラインで実施し、遠方からの受講も可能となりました。

今年度実施した講習には、必修領域の受講者数76名、選択必修領域の受講者数60名、選択領域の受講者数140名、合計で276名の方々の参加があり

ました。

講習では、担当講師からのオリエンテーションの後、各テーマに関する講義や実習が行われ、講習のまとめとして修了認定試験を行いました。講習後に寄せられたアンケートでは、「講習の内容を実際に授業に生かしていきたい」「教育をいつもは考えない視点から振り返ることができた」などの感想が寄せられ、受講者にとって有意義な講習となったことがうかがえました。

なお、今年度開催した講習は以下のとおりです。

（学務部学務企画課）

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方途	8月14日	6時間	80人	76人
選択必修	子ども・家族理解の視点と学校の組織的対応	8月21日	6時間	80人	60人
選択	あらためて子ども発達の基本を学ぶ	8月22日	6時間	80人	68人
	言語をめぐる研究とその応用	8月1日	6時間	40人	36人
	歴史学・人類学の最前線	8月10日	6時間	20人	19人
	数学とデータ科学およびプログラミング実習	8月12日	6時間	30人	6人
	理系の応用技術：工学の世界	8月18日	6時間	50人	11人

令和3年度学生相談講演会をオンラインにて実施

7月28日（水）、東京都立大学人文社会学部の勝又陽太郎准教授を講師にお迎えし、学生相談講演会「自殺についての理解と対応」を開催しました。

本講演会は、本学の教職員を対象として、様々な心の悩みを持つ学生が増加している近年の現状について理解を深めるとともに、求められる知識の習得を図り、学生支援の質の向上に資することを目的として実施しました。

講演会の参加者は112名にのぼり、事前の質問も寄せられたことから、参加者の関心の高さが窺えました。

講師の勝又准教授からは、自殺発生のメカニズムとその対応方法について、学生対応をする際のヒントになる考え方が多様な切り口で説明されまし

た。また、社会規範の観点では問題行動とされがちな自殺や自傷行為も、本人にとっては問題解決に役立つ方法として機能しているということを理解し、どのように状況を改善していくかを具体的な言葉かけの例も含めて紹介されました。

さらに、様々な対応事例を扱ってこられたご経験から、教職員が学生との信頼関係を構築することで学生の所属感を高め切迫した状況を緩和できるとのお話がありましたが、同時に所属感や負担感など、非常に主観的なものを扱っていることの難しさについても説明されました。

事前の質問の中には、コロナ禍ならではの事例についての質問や、ジェン

ダー別の特徴に関する質問、学生を支援する際の学内の連携体制に関する質問等も寄せられ、日々学生と接する教職員にとって、具体的な示唆を得られた非常に有意義な講演会となりました。

（学務部学生支援課）



オンラインで講演を行う勝又准教授

令和3年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施

7月27日（火）、高等学校の進路指導担当教諭等を主な対象とした入試説明会を開催しました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からオンラインにて実施しました。昨年度は事前に収録した動画を配信する形式としましたが、今年度は、ライブ配信を実施し、期間限定でライブ配信内容をアーカイブ配信しました。当説明会には、事前に169名の申し込みがあり、アーカイブの視聴者数も含め129名の方々に参加いただきました。

説明会の概要は、以下のとおりです。

- 挨拶・本学における教育・研究活動についての説明（山口淳二理事・副学長）
- 令和3年度入試結果の概要説明（藤田 修アドミッションセンター副センター長）

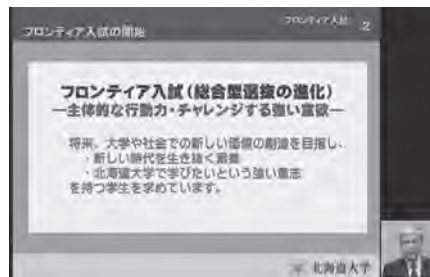
- 令和4年度以降の入試についての説明（藤田アドミッションセンター副センター長）
- 令和4年度入試の変更事項／フロンティア入試の開始についての説明（藤田アドミッションセンター副センター長）
- コンピテンシー評価についての説明（田村志穂美高等教育推進機構オフィサー）
- 休憩（キャンパス紹介動画の放映）
- 質疑応答（藤田アドミッションセンター副センター長）

開催後のアンケートでは、ライブ配信について「様々な気づきがあり生徒に共有していきたい情報が多々あった。次回もこのようなコンテンツで情報の提供があればうれしい」、「フロンティア入試にチャレンジしたい生徒に今日の情報を伝えたい」といった声があったほか、後日行われた録画配信についても「当日、他の校務が入ってしまい参加できず、アーカイブ配信をしていただけて助かった」という声も寄せられました。

（アドミッションセンター）



山口理事・副学長の挨拶及び本学の教育・研究活動についての説明



藤田アドミッションセンター副センター長によるフロンティア入試の説明

SCSK北海道株式会社と包括連携協定を締結

8月19日（木）、SCSK北海道株式会社と本学は、IT教育を主軸としたオープンイノベーション環境の構築及び北海道内のDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する高度IT人材育成を通じ、課題先進地域である北海道をフィールドとして世界の課題解決に貢献することを目指した連

携協定を締結しました。

調印式には、SCSK北海道株式会社から石丸清文代表取締役社長、馬場亨常務執行役員、土作正敏事業推進部長、管理部経営管理グループ嶋田浩一様、本学からは寶金清博総長と山口淳二理事・副学長が出席し、石丸代表取締役社長と寶金総長からそれぞれ、今

後の意気込みが述べられました。

本連携協定による高度IT人材育成を進めることで、第一次産業への応用はもとより、リカレント教育の連携も見据えた地域への貢献と、サステナブル社会の実現を目指します。

（研究推進部産学連携課）



協定書を手にする寶金総長（左）と石丸代表取締役社長



左から、山口理事・副学長、寶金総長、石丸代表取締役社長、馬場常務執行役員

北大マルシェCafé&Laboが大丸札幌店催事 「がんばろう北海道！フェア 協力：北洋銀行」に出展

大丸札幌店で開催された催事「がんばろう北海道！フェア 協力：北洋銀行」に、7月29日（木）から8月3日（火）の間、北大マルシェCafé&Laboが出展しました。店頭では北大牛乳のほか、北大牛乳を使用した「HOKUDAI Clark's Milk」シリーズの販売も行われました。HOKUDAI Clark's Milkは現在クッキー、バウムクーヘン、マドレーヌ、アイスクリームと展開しており、中でもアイスクリームは、生産したそばから売れてしまう人気ぶりです。北大マルシェCafé&Laboは本学敷地内にある百年記念会館の1階に店舗が

あり、北海道大学の農場で飼育されている牛から搾った牛乳を初めて「北大牛乳」として販売したお店です。北大牛乳はチーズ、アイス、製菓、料理等へ活用されています。

店長の宮脇崇文氏は今回の催事を振り返り「催事の中でお客様と接する中で自分たちの取り組みの認知が高まっていることが実感できました。今後、『知ってもらおう取り組み』から『手に取ってもらおう取り組み』へと力の入れ方を変えてみようと思う材料になりました」と話してくれました。

ぜひ店舗の方にも足を運んでいただ

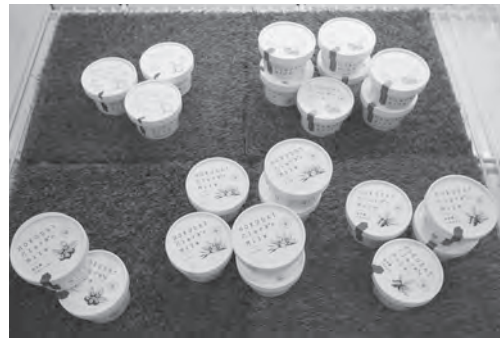
き、催事では取り扱われていなかった商品も手に取っていただければと思います。

北大マルシェCafé&Labo
札幌市北区北9条西5丁目
北海道大学百年記念会館1階
営業時間：
4月～10月は10：00～18：00、
11月～3月は10：00～17：00

（産学・地域協働推進機構）



出展の様子



HOKUDAI Clark's Milkアイスクリーム

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（8月31日現在）

30,966件 5,592,475,221円

8月のご寄附状況

法人等10社、個人233名の方々から15,574,973円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人愛全会、エファタ株式会社、医療法人社団翔嶺館、日本工営株式会社札幌支店、公益財団法人 北海道対がん協会、株式会社丸井足立

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 俊介	青柳 良隆	芦田 健一	芦塚 格	東 剛己	渥海 航	阿部 啓子
阿部 雅史	池田 梨子	石井 哲夫	石崎 福邦	石嶋 和夫	伊藤 美香	稲富 美仁	井上 洋子
猪股 路子	井原 博	今井 久雄	井利あずさ	入澤 秀次	岩崎 克巳	岩本 真幸	上田 昭平
上野 貴希	浦木健太郎	卜部 秀彦	縁記 和也	及川 和宏	大江 晃弘	大木 隆弘	大津 珠子
大原 正範	大山 裕士	奥田 英信	奥村 和久	小田 泰子	小田原一史	小野里典明	梶 慎一郎
金川 眞行	金沢 巧	金子 隆	上川 侖	亀貝 一義	川上 政昭	河原 暁子	河瀨 則良
河本 充司	菅野 彰一	菅野 浩	喜多 司郎	北川 薫	鬼頭 幸子	鬼頭 良岳	衣川 暢子
木村 隆之	工藤 俊哉	倉林 和重	倉元 祥伍	栗橋 秀幸	栗原 里美	黒津 卓三	小瀬村貴敏
小林 愛子	小林 厚志	小林 賢人	小林 真治	駒田 慶信	小向 志保	齊藤 晋	斉藤 久
境 政人	坂口万紀子	坂本 大介	佐々木浩子	佐生 愛	佐藤 惣人	佐藤 俊則	澤田 及子
澤村彰一郎	三升畑元基	志済 聡子	白鳥 貴久	須賀 均	菅原 新也	杉江 和男	杉田 恵子
杉田 真弓	菅野 直之	鈴木 貴之	須田 力	須和田卓弥	清野 浩一	関根 猛	瀬戸山洋介
瀬名波栄潤	十河 哲也	高木 正和	高橋 彩	高橋さおり	高林 秀樹	竹内 信彦	竹内 義治
竹林 孝	伊達 正文	田中 亨	田中 紀子	田中 裕子	田畑 太	玉井 康之	辻 英幸
土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦	戸田 純子	飛澤由紀子	豊田 威信	鳥山まどか	内藤 陽子
仲 裕	長島 郁夫	中塚 英俊	長野 圭介	長能 宏子	中埜渡丈嘉	中村 徳晴	中元 敦彦
成田 吉弘	西海 真一	西田 実弘	根来 清文	根本 隆志	野村 晃子	長谷 成人	長谷 由理
花田 秀一	羽深 悟	林崎 弥生	林 達也	日比 幸人	平井 克昌	福士 幸治	福田 剛
福永 悟郎	藤井 靖久	藤澤 裕子	藤田 治介	藤田 律子	船津 明	古木 誠人	細川 威樹
堀岡 咲枝	本田 精一	本間 敦	前田 朱実	前田 博	政氏 伸夫	町田 貴裕	松澤 桂
松田 健一	松原 謙一	水嶋 祐治	水谷 祐輔	南 幸諭	宮崎 玲子	宮田 信幸	村井 貴
村上 泰一	村上 幸夫	村瀬徳啓充	村武 直樹	矢嶋 剛	山口 健輔	山田 博史	山本 睦生
余湖 兼右	横内 葉子	横田 浩	横山 考	吉田 幸二	吉田 広志	吉田 裕子	米田 穰
Lee Abby	和久井俊秀	渡邊 裕					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）**（法人等）**

医療法人社団翔嶺館

（個人）

伊藤 美香, 小田 泰子, 河瀬 則良, 駒田 慶信, 境 政人, 杉田 真弓, 竹林 孝, 玉井 康之, 長能 宏子,
中村 徳晴, 中元 敦彦, 根本 隆志, 吉田 幸二

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

■ 部局ニュース

公共政策大学院が「HOPS地方議員・公務員向けサマースクール2021」を開催

～新型コロナ下の地域経営：脱出の糸口をどう見いだすか？～

公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、8月24日（火）・25日（水）に「地方議員・公務員向けサマースクール」を開催しました。

本講座は、平成20年度、地方議会の活性化と議員の自己啓発・自己研鑽に資することを目的に「地方議員向けサマースクール」としてスタートし、平成28年度より地方公務員にも門戸を広げて開講してきたものです。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止となりましたが、今年度はオンラインでの開催とし、道内外から地方議員41名、地方公務員14名が参加しました。

1日目は「新型コロナウイルスの影響と北海道経済」について日本政策投資銀行常務執行役員 友定聖二氏からのご講演、続いて各地での事例紹介として「北海道の観光の今後の生き残り方」について一般社団法人ひがし北海道自然美への道DMO専務理事 野竹

鉄蔵氏、下川町教育委員会教育課生涯学習グループ主任 和田健太郎氏、「北海道への人口流入を加速する」について沼田町住民生活課移住定住応援室主査 岩井俊直氏、「道外の地域におけるコロナ感染対策での取組」について新宿歌舞伎町でホストクラブ・バー・飲食店など18店舗を運営するかたわらホストによるボランティア団体「夜鳥の界」の中心メンバーとして歌舞伎町の街頭清掃活動等の社会貢献活動に取り組んでいるSmappa! Group代表・歌舞伎町商店街振興組合常任理事 手塚マキ氏より講演をいただきました。

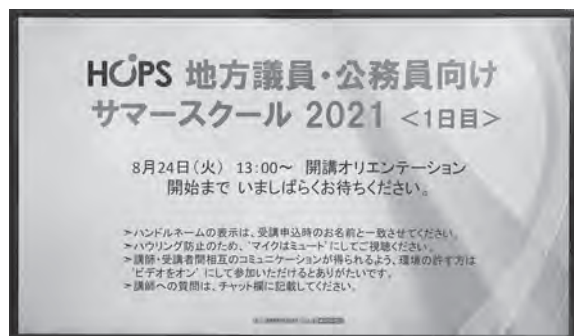
2日目は、SIMULATION北海道2035研究会代表（公共政策学研究センター研究員）宮腰和明氏とHOPS専任教員によるグループワーク「自治体運営シミュレーション～中長期的課題とコロナ禍対応」を行いました。これは、少子高齢化が進行する架空の自治

体を舞台にしたシミュレーションゲームで、参加者は3ラウンドのロールプレイを通し、限られた予算の中でまちづくりをどう進めるか検討、地域の将来像を構想しました。

今年度は初のオンライン開催となりましたが、受講者からのアンケート調査では、講演及びグループ討議いずれもおおむね高い評価となっており、議員と市町村職員がともに学び、情報を交換し、議論することができる当スクールのような場が強く求められていることが明らかになりました。

公共政策大学院では、今後も受講者の方々が最新の知見に触れつつ、互いに親密なネットワークを形成する契機となるよう、より改善を重ねながら本講座の実施を継続し、地域の活性化・振興に取り組んでいく所存です。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



1日目オープニング



1日目集合写真



2日目集合写真

スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、8月19日（木）から20日（金）に、ロシア・東欧学会との共催で「スラブ・ユーラシア研究サマースクール」を開催しました。スラブ・ユーラシア地域の研究を志す学生を増やし、学生が学際的な研究を行えるよう支援・奨励することを目的としています。

本サマースクールは、故中村泰三氏（1933-2016）からのロシア・東欧学会への遺贈寄附と、百瀬 宏氏からの本センターへの寄附により行われたものです。中村氏は本センターに対しても寄附をしてくださっており、いただいた寄附金は、国内の博士課程学生を招へいする「中村・鈴木基金奨励研究員制度」として活用しています。百瀬氏からのご寄附は、2020年に寄せられたもので、「百瀬基金」を設立し、若手研究者を支援する百瀬フェローシッ

プなどに活用しています。

本サマースクールの参加学生は、全国の大学から公募で選ばれた28名で、内訳は学部3～4年生が15名、修士課程院生が8名、博士課程院生が5名でした。本サマースクールは、対面とオンラインのハイブリッドで実施されましたが、直前に全国でのコロナウイルス感染状況が悪化したことから、対面の参加者は14名、オンラインの参加者が14名となりました。

サマースクールでは、本センターの教員や客員研究員など計8人の研究者が、スラブ・ユーラシア地域に関わる文学、言語学、歴史学、社会学、文化人類学、政治学、国際関係論、経済学の観点から講義を行いました。また、学生同士の交流や本センターの教員等との交流を目的に、オンライン参加者を含む学生1人1人が研究発表を行い

ました。講義や発表では、学生から多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。一部の院生は、滞在を延長してスラブ・ユーラシア地域研究の蔵書が充実している附属図書館等で資料収集を行いました。

実施後に行った参加学生へのアンケートからは、様々な分野の講義を聴いて勉強になった、自分の研究分野に近い教員からのコメントが大変有益だった、同世代の学生の発表に刺激を受けたなどという回答が返ってきました。このようなサマースクールは初めての試みでしたが、来年以降もより広い範囲のスラブ・ユーラシア研究者コミュニティの支援を受けて継続できないか検討する予定です。

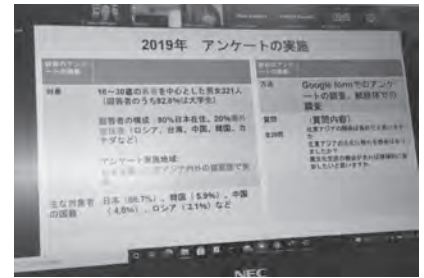
（スラブ・ユーラシア研究センター）



望月哲男名誉教授による講義



密を避けるための隣室での中継



オンライン参加学生による発表

水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」 「みんな意外と分かってる！海岸動物の社会関係」を開催

7月25日（日）に函館キャンパスにおいて「みんな意外と分かってる！海岸動物の社会関係」を開催しました。本プログラムは、高校生があまり教わる機会のない「行動生態学」を紹介し、海岸動物の行動・生態研究に対する関心を高め、さらに、海岸動物が意外と他個体を気にしながら暮らしていることを観察と実験で科学的に実証できることを実感してもらうプログラムです。令和3年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）の交付を受けて実施しました。

本プログラムは高校生を対象に募集し、北海道大学機能強化促進事業の1つであるバランスドオーシャン事業が提供している教育システムプラットフォーム「LASBOS」を利用して、本プログラムの基礎知識を伝えるオンライン教材や海岸動物の魅力伝える動画を公開しました。その結果、定員を上回る14名からの申し込みがあったものの、その後のキャンセルがあり、当日は道内外から訪れた10名を参加者に迎

えました。開講式では本プログラムの趣旨と科研費に関して説明した後、借上げバスで函館湾西端、葛登支岬周辺海岸へ移動し、野外実習として海岸動物の観察・採集を行いました。函館キャンパスへ戻ってきてから、和田哲教授による行動生態学の研究等に関する講義や、海岸動物を用いた実験実習を行いました。

野外実習では参加者を3つのグループに分けて、各班に水産学部の学生や大学院生などのスタッフが2名ずつ付き添い、さまざまな動物を見つけるスタンプリート、実験に用いる動物の採集を行いました。実験では、ヤドカリの交尾前ガード行動の観察や、オスがメスをめぐって激しく闘争すること、またアゴハゼの摂食行動などを観察しました。さらに、飼育施設や他の研究室見学時間も設けて、研究の現場を詳しく体験できるように配慮しました。昼食時やクッキータイムには、スタッフの学生や大学院生と、参加者同士、和やかな雰囲気の中で交流を図りまし

た。参加者は、各種の催しに大変熱心に取り組んでおり、海岸動物を対象とした行動・生態研究の魅力や、大学での研究生生活を知る良い機会になったと思います。また、本プログラムを通して、参加者は、身近な動物を丁寧に観察したり簡単な実験をするだけでも、おもしろい現象を発見したり、そこから生まれた疑問を自分なりに追求できることを学び、「研究」をより身近に感じてもらえたと思います。

予定していた全ての講義・実験を無事に終了し、修了式を行い閉講となりました。

参加した高校生からは、「貴重な体験をさせていただき、海洋生物に興味を持つことが出来ました。自分もこのような研究に参加したいと思いました。水産学部の魅力をたくさん感じさせていただきました。」等、満足度の高い感想をいただきました。

（水産科学研究院）



海岸動物の採集の様子



海岸動物に実際に触れる様子



海岸動物を観察している様子



講義の風景

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和3年8月30日）

- 議案・新たなポジティブアクション制度について
- ・株式会社クボタ、株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメントとの連携協定について
 - ・契約監視委員会の設置について
 - ・諸規則の制定について
- 協議事項・北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）における学生の所属変更について
- ・研究生の受入れに係る運用の弾力化について
 - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・令和3年度運営費交付金における評価結果について
- ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・障がい者の雇用状況等について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程

（令和3年8月2日海大達第117号）

令和3年4月19日付け「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」（平成23年4月1日内閣総理大臣決定）の一部改正に基づき、特定歴史公文書等の紛失等が明らかになった場合の対応を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第118号）

国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第119号）

国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第120号）

国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第121号）

国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第122号）

総長選考会議からの提言を受け、総長を含む役員が非違行為を行った場合に、その発見者が不安を抱くことなく相談、通報、告発等を行えるようにするため、非違行為に役員が関係する場合の相談、通報、告発等の取扱いを定めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程

（令和3年9月1日海大達第123号）

令和3年8月31日付けで、借上寮である北大インターナショナルハウス北8条東の賃貸借契約が終了すること及び規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

■人事

令和3年8月18日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 (任期満了)	中山 元太郎	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

令和3年8月19日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	中尾 文子	環境省自然環境局野生生物課長

令和3年8月31日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【教授】 (任期満了)	城戸 亮	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

令和3年9月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和5年8月31日まで)	杉江 和男	北海道大学校友会エルム会長
【教授】 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院情報科学研究院教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	井上 晶 山崎 浩司 西村 寿彦 山本 直樹	大学院水産科学研究院准教授 大学院水産科学研究院准教授 大学院情報科学研究院准教授 内閣官房内閣人事局企画官

新任教授紹介

令和3年8月19日付

公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授になか お ふみ こ
中尾 文子 氏

最終学歴

東京大学農学部卒
ゲルフ大学大学院修士課程修了

専門分野

環境政策, ランドスケープ学

令和3年9月1日付



水産科学研究院教授に

いのうえ あきら
井上 晶 氏海洋応用生命科学部門
海洋生物工学分野

生年月日

昭和45年12月28日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科後期課程修了（平成10年3月）
博士（水産学）（北海道大学）

専門分野

海洋生化学, タンパク質工学



水産科学研究院教授に

やまざき こうじ
山崎 浩司 氏海洋応用生命科学部門
水産食品科学分野

生年月日

昭和42年8月15日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了（平成4年3月）
博士（水産学）（北海道大学）

専門分野

食品微生物学, 食品衛生学



情報科学研究院教授に

にしむら としひこ
西村 寿彦 氏メディアネットワーク部門
情報通信システム学分野

生年月日

昭和44年5月9日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻博士後期課程修了（平成9年12月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

無線通信

公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授にやまもと なおき
山本 直樹 氏

生年月日

昭和49年8月15日

最終学歴

神戸大学大学院国際協力研究科修士課程修了（平成11年3月）

専門分野

行政学, 公務員制度

訃報

名誉教授 清水 宏 氏
(享年66歳)



名誉教授 清水 宏 先生が、令和3年2月17日にご逝去されました。清水先生は東京都に生まれ、慶應義塾大学医学部時代にはバレーボール部のキャプテンとして活躍されたスポーツマンでした。昭和54年に同大医学部を卒業後、同大皮膚科に入局され、昭和61年には水疱性類天疱瘡の研究で学位を取得されました。翌昭和62年に、

英国ロンドン大学に留学し、超低温post-embedding免疫電顕法という新技術を初めて皮膚科研究に応用し、表皮水疱症などに関する多くの業績を残されました。その後も表皮基底膜研究や遺伝性皮膚疾患の出生前診断の第一人者として活躍され、平成11年10月に北海道大学医学部皮膚科学分野の第五代教授に就任されました。

北海道大学でもその圧倒的な行動力を存分に発揮され、学生・研修医教育体制の刷新や研究室の充実、研究費の獲得、英文論文執筆の推進など、様々な改革に取り組みられました。その結果、北海道大学医学部皮膚科学教室からは表皮水疱症や自己免疫性水疱症、魚鱗癬、アトピー性皮膚炎、薬疹、皮膚幹細胞、再生医療などに関する多くの研究成果が生まれ、教室から7名の教授を輩出するに至りました。また、ご自身が納得する皮膚科教科書で教育

を行いたいという信念のもとに執筆された「あたらしい皮膚科学」は現在、皮膚科で最も広く読まれている教科書となっています。

国際的にも広く活躍され、米国や欧州など7つの国際学会で名誉会員に推挙されております。平成30年には、皮膚科学における長年にわたる傑出した国際的なご尽力が高く評価され、国際皮膚科学連合（ILDS: International League of Dermatological Societies）の名誉賞を受賞されています。

いつも明るくポジティブで世界中から愛された清水 宏先生の生前のご功績とお人柄を偲び、長年にわたるご貢献、ご指導に敬意と感謝を表し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

(医学院・医学研究院・医学部)

名誉教授 延興 三知夫 氏
(享年90歳)



名誉教授 延興三知夫 先生が令和3年7月25日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

延興先生は、昭和5年9月20日に上川郡清水村（現清水町）に生まれ、昭和28年3月に本学理学部化学科を卒業、昭和30年3月に同大学院理学研究科化学専攻修士課程を修了、同年4月触媒研究所助手に採用されました。昭和31年から35年まで、ペンシルバニア

大学大学院に留学され、「Mechanism of Electrodeposition and Dissolution of Metals in Aqueous Solution」の研究により同大学からPh.D.の学位を授与されました。

昭和36年4月触媒研究所助教授、昭和58年4月同教授に昇任、物理化学部門を担当され、昭和63年4月から平成元年5月まで触媒研究所長を務められました。その後、同研究所の改組により、平成元年5月触媒化学研究センター教授として界面エネルギー変換部門を担当され、平成4年から平成6年まで触媒化学研究センター長を務められました。この間、評議員として大学運営の枢機に参画し、本学の発展に尽力され、教育行政上多大な功績を残されました。本学退官後は、平成6年4月から平成11年3月まで函館工業高等専門学校校長を務められました。

先生は、39年にわたって本学に奉職し、特に大学院教育において専攻分野の技術者・研究者の育成に励まれ、教

養部及び農学部学生の教育指導にも嘱されて力を尽くされました。また、永年にわたり本学漕艇部の顧問教官として、課外活動の指導にあたられました。

研究面では一貫して電気化学・触媒化学の研究にとりくみ、特に電極反応の速度論や反応機構に関する実験的な研究分野において、学術の発展に多大な貢献をされました。主として電極反応に関する反応論の研究を進め、特に同位体を利用する反応機構の詳細な研究、及び過渡現象法による反応中間体の挙動に関する研究、また、それらの結果に基づく「混合律速反応系の一般的解析」について大きな研究成果を挙げられました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(触媒科学研究所)

編集メモ

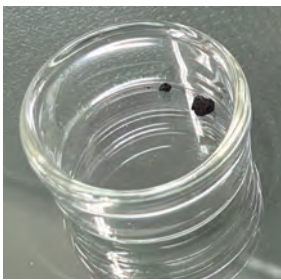
●リュウグウサンプル第2弾が到着

7月号に掲載したニュースの続報です。9月13日(月)、はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウのサンプルの第2弾が本学に到着しました。今回は第1弾の約5倍のサンプル量で、およそ25 mg。分析に取り組んでいる理学研究院の塚本尚義教授は、「これまで地球上に落ちてきた、どの隕石とも違う物質であることが分かってきました。今回到着したサンプルで、ひきつづき同位体顕微鏡での分析を行い、さらにリュウグウ形成の

謎に迫っていきたいです」と、語りました。分析結果は、年明けに予定されている論文発表までお楽しみに。



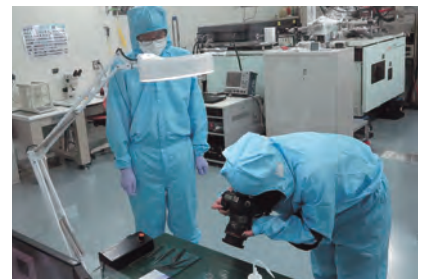
参考：【リサーチタイムズ】「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが北大にやってきた



今回到着したリュウグウのサンプル
(大きさは5-6 mm程度)



サンプル分析に取り組む塚本教授



クリーンルーム内での取材の様子。
奥が塚本教授。

●リテラポプリ最新号が発行

広報誌「リテラポプリ」。9月に最新号Vol.67を発行しました。今回の特集は、「つなぐ」をテーマに、「歴史」「人材育成」「多様性」という3つの観点から、本学の取り組みを紹介しています。デジタル版も掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>



●大学拠点接種が行われました

本学の第一体育館において、7月17日から9月12日まで、大学拠点接種（新型コロナウイルス感染症に関連し

た大学等におけるワクチン接種）が行われました。早朝から業務にあたった医療従事者、事務職員やボランティアの皆さん、誠にありがとうございました。



第一体育館



接種会場の様子

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は保健センターです。保健センターは、学生の校医であり、教職員の産業医。保健医療のプロフェッショナルとして、構成員の心身の健康を支えています。学生の皆さん、疲れや不安を感じた時には足を運んでみてはいかがでしょうか。

キャンパス風景 18 保健センター（北16条西7丁目）



北大時報 ⑨ No.810 令和3年9月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>